

ミレニアム開発目標(MDGs)とポストMDGs

ミレニアム開発目標(MDGs)

◆ 2015年までの国際開発目標

- 「国連ミレニアム宣言」などを基に、2001年に策定。
- 強み＝単純・明快・期限付きの数値目標
 - 目標1: 極度の貧困と飢餓の撲滅
 - 目標2: 初等教育の完全普及の達成
 - 目標3: ジェンダー平等推進と女性の地位向上
 - 目標4: 乳幼児死亡率の削減
 - 目標5: 妊産婦の健康の改善
 - 目標6: HIV/エイズ, マラリア, その他の疾病のまん延の防止
 - 目標7: 環境の持続可能性確保
 - 目標8: 開発のためのグローバルなパートナーシップの推進

◆ 一定の成果。しかし、引き続き課題は大きい。

- 特に教育・母子保健・衛生などは、現状では達成困難。
- 地域ではサハラ以南のアフリカ, 南アジア, オセアニア(島嶼国)で達成に遅れ。

◆ 新たな課題への対応も必要に。

- 国内格差の拡大(MDGsはマクロ指標)
- 持続可能な開発の必要性(リオ+20)など

2015年より先の目標(＝ポストMDGs)
策定に向けた国際的な議論が本格化

← 日本の強みを活かしつつ、効果的な枠組みの
策定を主導し、日本の国際プレゼンスを向上

ポストMDGsの主要課題

◆ 現行MDGsを基礎とし、その経験と教訓を踏まえる。

- **簡素・明快さ**を保つ(目標の整理・統合も)。
- **貧困撲滅**を中心に(**持続可能な開発**にも配慮)。

⇒ 野心的かつ動員力のある目標策定を主導。

◆ 成長・雇用に光を当てる。

- 成長・雇用は**富を創出**する源。
- **質の高い成長(グリーン・包摂的成長)**を目指す。

⇒ 日本の技術の活用。

◆ 国内格差の拡大に目を向ける。

- 世界の貧困層の約4分の3が中所得国に居住。
- **衡平性・包摂性**が鍵。

⇒ 日本企業の進出先である**アジア**も重視。

◆ この10年間の国際社会の変化に対応する。

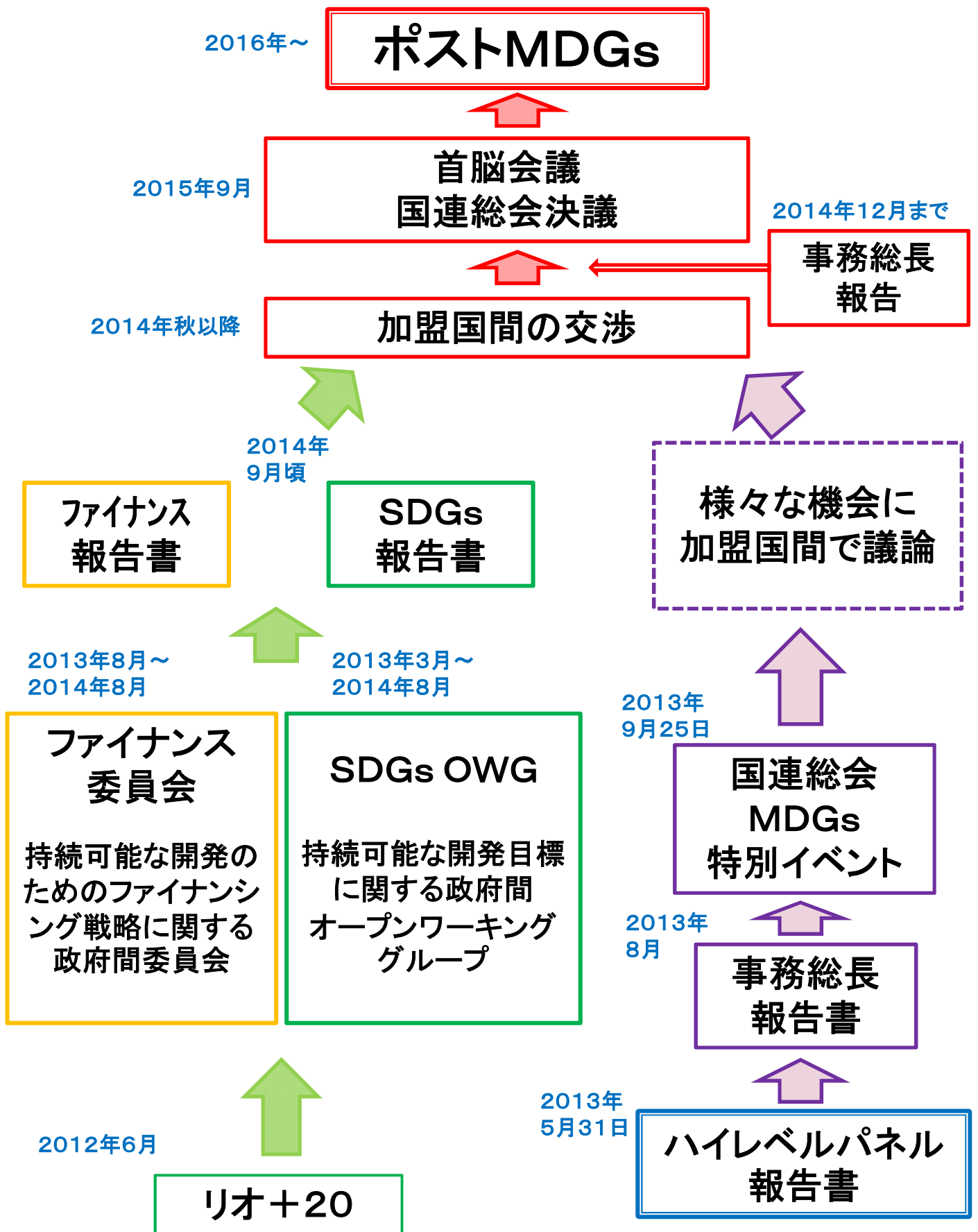
- **人間の安全保障**を指導理念の一つに位置づける。
- 保健、教育等の主要分野で課題・指標を改善。
※保健では**ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ**を重視。
- 防災、食料安全保障・栄養など**新たな課題**に対処。
- **民間セクター**の関与。**新興国**、**NGO**などの役割。

⇒ 日本らしい支援と新たなパートナーシップの確立。

◆ 途上国自身の努力(オーナーシップ)を推進する。

- ガバナンス強化・途上国内の資源の動員の促進。

⇒ 開発効果の向上。**脆弱国**にも配慮。



※ 他にも様々なフォーラムで幅広い議論